

報告

第17回 日本赤十字社診療放射線技師会 九州ブロック研修会報告

開催日：平成28年9月24日（土）・25日（日）

場所：大分赤十字病院 管理棟5F 大会議室

今回の九州ブロック研修会は、例年と趣向を変えて、原子力災害における救護活動をテーマに行いました。九州から39名の参加があり、1日目は講習を、2日目は実習中心に行いました。このような形での研修会は初めての試みでしたが、盛会に終える事ができました。情報交換会では、ふぐ料理に舌鼓を打ち、ふぐ肝を初めて食した会員も多くみられました。

以下に研修会内容を記します。

1日目



大分赤十字病院 本廣 院長挨拶



開会の辞 大分赤十字病院 戸口 技師長

講義1 「原子力災害～備えと救急時対応～」

大分県立看護科学大学 環境保健学研究室 教授 甲斐 倫明 先生

甲斐先生の講演では、福島原発事故を例に、事故からの教訓や、それによって顕在化したこと。また、診療放射線技師に期待されること等、わかりやすく講演していただきました。



甲斐先生の講演では、福島原発事故を例に、事故からの教訓や、それによって顕在化したこと。また、診療放射線技師に期待されること等、わかりやすく講演していただきました。

講義 2 「災害救護活動における放射線防護の基礎知識」

日本赤十字社長崎原爆病院 血液内科 部長 城 達郎 先生



城先生の講演では、広島・長崎の原爆を例にわかりやすく説明していただき、チェルノブイリ事故と福島原発事故は被害の程度に、こんなにも差があるのは？といった大変興味深い内容で、防護の話だけではなく幅広く講演していただきました。

講義 3 「日本赤十字社診療放射線技師会災害医療支援部の活動」

日本赤十字社診療放射線技師会 災害支援部 理事

名古屋第二赤十字病院 駒井 一洋



駒井理事の講演では、赤十字放射線技師会 災害医療支援部の活動を詳しく、海外での活動も踏まえて報告されました。また、原子力災害対応のうごき、救護対応マニュアルの整備等の報告もされました。

講義 4 「原子力災害における安全確保について」

唐津赤十字病院 坂井 誠一郎



坂井さんの講演では、原子力災害では放射線対応支援要員として、放射線技師が救護班に主事ではなく、放射線技師として編成されること。そのためには、放射線防護の教育や研修が必要であること。救護班の中で、放射線対応支援要員として求められるものとは何か。具体的にわかりやすく講演していただきました。

2日目

講義・実習1 「サーベイメータ・個人被ばく線量計の保守管理と使用方法」

日本赤十字社診療放射線技師会 副会長

松江赤十字病院 磯田 康範



磯田副会長の講演では、サーベイメータとデジタル個人線量計の取り扱いや、スクリーニング方法など実習を交えて、わかりやすく講演していただきました。



講義・実習 2 「防護服着脱方法」

日本赤十字社 長崎原爆病院 前田 夕介



前田さんの講演では、防護服の着脱方法での留意点を、実習を交え講演していただきました。坂井さんの、ちょっとしたミニレクチャーもありました。



講義・実習 3 「原子力災害における空間線量シミュレーション」

日本赤十字社診療放射線技師会 災害支援部 理事

名古屋第二赤十字病院 駒井 一洋



駒井理事の講演では、シミュレーションで各地区の空間線量率とそこでの活動時間や移動時間を設定してもらい、3日間で1mSv以下にするには?というテーマで活動内容を考えました。

閉会の挨拶



閉会の挨拶は、次回担当病院である長崎原爆諫早病院の大町さん、長崎原爆病院の宮本さんにしていただきました。



皆さまに、全体的に内容の濃い研修会であったと、おっしゃっていただきました。講師の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。